



松阪市

「食」や「緑」と友達になろう！ 松阪農業公園ベルファーム



ユニバーサルデザインに配慮されているイングリッシュガーデン

本居宣長が愛した「鈴の音」を 名前に冠した農業公園

松阪市は言わずと知れた和牛の高級ブランド「松阪牛」の産地である。その松阪市に「食」と「緑」への理解を深めることを目的に、松阪農業公園ベルファームが誕生した。ベルファームの「ベル」は当地出身の国学者、本居宣長が「鈴の音」を愛したことにちなんで付けられたという。

ベルファームは昔から農業が盛んで、辺り一面に養蚕や桑畑、酪農用の牧草が広がる緑豊かな伊勢寺町地区にある。近くを走る伊勢自動車道・松阪インターチェンジの完成をにらんで約8年前、農業を核に来訪者との交流を図ろうという計

画が持ち上がり、「農と匠の里整備事業」がスタート。途中、市民アンケートをもとに何度も計画が見直され、今年ようやくオープンした。
松阪駅から車で約20分。利用者のほとんどは車で来園するが、松阪駅から乗合タクシー（1人800円）も運行されている。

自然の中で松阪牛が躍動する 障害のある人が描いた「壁画」

約29haの広大な敷地内は「地産地消」、「スローフード」をテーマに、消費者へ「食」と「農」の情報を提供する空間だ。駐車場そばの壁に自然をテーマに描かれた壁画は、身体障害者通所施設「まつさかチャレンジブレイス希望の園」に通う

人々の手によるものだ。松阪牛が躍動するこの壁画は障害のあるなしかかわらず、たくさんの人に楽しんでもらうために開所された同園の理念を端的に表している。門をくぐると、リアフリーに配慮された「匠の館」「食体験館」「イングリッシュガーデン」などが並ぶ。

車いすでも快適に見て回れるイングリッシュガーデンは、英国園芸研究家ケイ山田さんが監修した国内最大級の観賞庭園だ。草花に直接手で触れることができ

るし、ハーブなどの香り草も植えられているので、視覚障害者も十分楽しめる。
3つの池を巡る自然の温もりを感じ取れる散策コース

牛の個体履歴が明らかな松阪牛をはじめとする「地産地消」の食品を、手軽に味わうことができるのも同園の魅力。土産品の他に串焼き（500円）も販売している。意外に知られていないが、松阪市は全国有数のモロヘイヤの産地だ。こ

こでしか味わえないモロヘイヤを練り込んだ蕎麦麺やジェラートは絶品だ。
「食」に舌鼓を打った後は、園内にある3つの池の池畔をぐるりと一回り。1周約1・2kmの小径は、自然の温もりを肌で感じ取ることができる散策コースだ。途中、車いすで自力走行するには勾配を緩やかにしたほうがよい箇所や手すり



園長の中川博さん

「必要な場合には、職員が積極的に介助を申し出ています」（中川浩 園長）。最後はやはり人の力だ。
同園では、汚水処理した水を芝生や樹木の散水として再利用するなど、環境にも配慮している。

蜂蜜採取や畑仕事で「農」に親しむ

作物の種蒔きや収穫を通じて、「緑」や「食」の知識を深めるための場が「学びの農場」だ。日頃、農作業と無縁な子どもたちが楽しみながら土いじりをする中で、「農」への理解が深まっていく。蜂蜜採取体験など、その他のワークショップも盛りだくさん。園芸を学んだ専門職員が指導に当たっているため、知的好奇心旺盛な子どもたちにも好評だ。

海外で園芸療法を学び、本誌の購読者でもある業務課長の板倉紀人さんは「オープンしたばかりで不備な点はありませんが、できることから改善していきたい」と作業服姿で微笑んだ。
帰り際、芝生に目をやると、孫とお爺ちゃんが談笑している。年齢を超えて誰もが安らぎを感じ取れる場、それがベルファームである。



身体障害者通所施設の人々が描いた壁画



園内の3つの池はビオトープとして活用



車いすの駐車スペースは主要な建物から至近距離に配置



地域の産品を販売するコーナー



駐車場から眺めたベルファーム



大きな集会にも使用可能な芝生の多目的スペース



鳥羽市

中部国際空港の開港をにらんで バリアフリー対応の新造船が就航



鳥羽港に入港する伊良湖行き最終便

美しい島々を眺めながら クルージング気分をひたす

近隣に数々の観光スポットを抱え、真珠で有名な伊勢志摩観光の拠点、鳥羽市へは海路で訪れることもできる。現在、鳥羽港と伊勢湾を挟んで向かい合う伊良湖港（愛知県）、知多半島の師崎港（愛知県）の2つのフェリー航路が就航しており、美しい島々を眺めながらの船旅はちょっとしたクルージング気分だ。そのためか他のフェリー航路と比べて、観光客の割合は多いという。いずれも目的地までの所要時間は、陸路で伊勢湾をグルッと回るよりもはるかに短い1時間強。これらの航路は鳥羽市に本社を置く伊勢湾フェリー（株）により運航されている。

同社は中部国際空港「セントレア」の

せる。これらの新造船は「交通バリアフリー法」に準拠して造られた。

「交通バリアフリー法」といえば駅舎や駅前広場に目がいきがちだが車両、航空機、船舶などの乗り物についても、「移動円滑化のために必要な旅客施設及び車両等の構造及び設備に関する規準」（国土交通省令）で細かく定められている。

同規準では出入口、エレベーター、トイレなどに関してモジュールなどが記されており、タラップを例にあげると、車いす使用者が持ち上げられることなく乗降できる構造のものであること、有効幅は80cm以上あること、手すりが設けられていること、床の表面は滑りにくい仕上げがなされたものであることを求めている。

新造船に関してはこのように細かなバリアフリー規準に沿って造られるが、既存の船舶に対しては建物と同じで、努力義務ほどの効果しかない。

多目的トイレや授乳コーナーを 備えた新造船「知多丸」

2隻の新造船のうち「知多丸」はすでに完成し、現在は鳥羽・伊良湖間を就航している。鳥羽フェリーターミナルから船へのタラップは、車いす利用者が自力走行するのに十分な幅がある。自動車を積載する低層階と客室を結ぶエレベーター



遊覧気分を楽しめる広々とした船内



向かい合った座席を設置



座席の前後の間隔は航空機のファーストクラス並み



座るも寝るも自由自在の絨毯敷きコーナー



カーテンを開ければ、授乳スペースに



自動車の格納階には客室とを結ぶエレベーターを設置



車いす対応トイレの内部

開港をにらんで来年2月、鳥羽・常滑航路を開通する。同空港はユニバーサルデザインを考慮して造られたはじめての国際空港としても、注目を集めている。この航路は風光明媚な鳥羽湾を眺め、常滑港近くでは航空機の離発着を観ることが出来るルート。常滑港と中部国際空港の距離は約5kmあるが、フェリーにリムジンバスを積載することにより、鳥羽駅・空港ターミナル間を乗り換えせず、手荷物を詰め替えることなく旅行することができる。

「交通バリアフリー法」に準拠した 多目的トイレを備えた新造船

新しい航路の開通に合わせて、伊勢湾フェリー（株）では2隻の新造船を就航さ

はバリアフリー仕様なので、自動車利用者はこれを使えばいい。

エレベーターから最も近い位置には「バリアフリー椅子席」が設けられており、グイッと足を伸ばしても前の座席にあたらないほど、前後幅が広いのが特徴だ。この他に固定式の車いすスペースもある。多目的トイレは駅舎などでよく見かけるタイプ。客席の一部をカーテンで仕切る授乳コーナーも設けられている。

水面を遊ぶ海鳥、青き鳥影、空には飛行機雲。例えばこんな光景を楽しみながらの船旅は一興だ。誰もがその気ささえあれば、海に開かれたまち鳥羽へ、海上から訪れることができる。



ゆったりとした船内に設けられたラウンジスペース



伊勢市

日本の伝統文化、生活文化を 発信するNPO法人「五十鈴塾」



江戸時代からの観光スポット「伊勢神宮」

世代を超えて、多様な人々に 「日本探し」の場を提供する

おはらい町は伊勢神宮の内宮通りから北に800m続く門前町だ。通りに面した店舗は木造建築物でほぼ統一されており、往時を偲ばせる。江戸の人々が一生に一度はと憧れた伊勢詣を夢想しながら通りを北に進むと、通りの終わりに現れるのがNPO法人「五十鈴塾」の建物だ。五十鈴川と内宮通りに挟まれた日本建築にしばし佇んでいると、往時にタイムスリップしてしまいそうだ。

同法人は「日本探し」の場を提供することを主目的としており、生活文化、伝統文化に関する情報の収集・発信、生活文化、伝統文化の体験学習、交流・研修、伊勢学の調査、研究、学習、発表、地域の文化交流活動をより活性化させるため

の4つの事業を実施している。子どもからお年寄りまで、世代を越えて多様な人々に日本の良さを再発見してもらうためのプログラムは盛りだくさん。

多彩な講師陣による 日本文化を知るためのイベント

五十鈴塾では茶道、きもの、日本史、日本文化などの講師陣を配して、年間を通じてさまざまなプログラムを組んでいる。俳聖・松尾芭蕉の生誕360年に当たる今年、県の公募事業として取り組んだのが「芭蕉と杖と旅枕」と題したイベントで、作家立松和平さんらによる講演会、ウォーキング俳句会、杖と枕のコレクションの展覧会などが行われた。

小学生を対象にした「集まれ！ちびっこ体験塾」では、七輪で干し魚を焼いたり、今ではめったに見かけなくなった日



年齢にかかわらず、町歩きを楽しめる「おはらい町」。向かって右の建物が「五十鈴塾」



「五十鈴塾」の内部



「五十鈴塾」は伝統的な日本家屋

本の暮らしに、子どもたちが直接触れることを目的としている。「着物の着付け教室」や「絵画展」、有名講師を招いた講演会も頻繁に実施されており、漫画「島耕作」の作家、弘兼憲史さんの「たそがれの生き方」と題した講演もそのひとつだ。

講座のない日には 文化交流の場として貸し出す

建物は本格的な茶室をもち、日本の伝統文化を味わうには格好な「左王舎」、井戸やかまどのある旧家の雰囲気をもつ「右王舎」で構成される。いずれも講座のない日には一般（個人・グループ・一般）に貸し出しており、自由な演出で会合や各種イベントなど多目的に使用することができる。料金は3時間で5000円。

同団体ではNPO法人として、ボランティアスタッフの募集も行っている。主な活動はパソコン入力、講座運営補助、会員登録の管理補助、受付・接待、清掃修理、着付けボランティアなど。スタッフには有料講座の受講などに使用できる「五十鈴葉紙（1枚500円相当）」が支給される。

単なる観光旅行ではあきたらない。そういう人は伊勢神宮を参拝し、おはらい町を散策した後、五十鈴塾に立ち寄りてみてはどうだろう。五十鈴塾は地元の人と来訪者との交流の場でもある。体験講座に参加すれば、趣向が同じ仲間ができるかもしれない。

五十鈴塾は日本人としてのアイデンティティを確認させてくれる場だ。



五十鈴川沿いは格好の散策コース



江戸時代にタイムスリップしたような街並み



「おはらい町」の中につくられた「おかけ横丁」



車いすの観光客も少なくない